

## 本時のねらい

行書の特徴を捉え、行書とそれに調和する仮名で文字を書くことができる力を養う。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・手本となる映像をそれぞれのペースで参照し、正しい行書の筆使いを確認することができる。
- ・自分の作品の制作過程を動画で撮影し、自分の運筆を客観的に確認することができる。
- ・完成した作品をカメラで撮影して、全体で共有し、相互評価をすることができる。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・学習者用タブレット PC
- ・指導者用タブレット PC
- ・ビデオプロジェクタ
- ・SKYMENU「発表ノート」
- ・Microsoft Teams

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の特徴を復習する。</li> <li>・模範動画を見て、本時で書く「紅花」の特徴をつかむ。</li> <li>・書道初心者が書いた行書の動画を見て、その改善点の考察をする。</li> <li>・本時の流れを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「紅花」の行書の特徴をプロジェクタで提示し、全体で確認する。</li> <li>・それぞれのタブレット PC に、Teams を通して模範動画を共有し、いつでも自分のペースで確認できる状態にする。</li> </ul>
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の運筆を録画し、模範動画と見比べることにより、どこを改善すればいいのかを自己分析する。</li> <li>・Teams 上の模範動画を参考にしたり、タブレット PC を用いてお互いに撮影しあったりして、自分自身が書いた文字と照らし合わせながら何度も練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Teams 上の動画には、「指導書の模範動画」や「教員が書いた模範動画（テロップ付き）」だけでなく、授業中に生徒が書いている様子をリアルタイムでアップロードし、参考にできる動画をたくさん用意しておく。</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品を写真で撮り、SKYMENU「発表ノート」で提出する。</li> <li>・過去の自分と比べて成長した点、まだ改善が必要な点を振り返りシートに書く。</li> <li>・次回授業の予告 (本時より良い作品を書けるようにするために。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SKYMENU「発表ノート」で提出した生徒の作品は、共有できるように設定し、お互いに学びあえるようにする。</li> <li>・生徒から出てきた運筆上の改善したい点は、次回の授業で共有する。</li> </ul>

## 1人1台端末を活用した活動の様子



写真1 模範動画を見ている様子



写真2 自分の運筆を撮影してもらっている様子



写真3 SKYMENU「発表ノート」上に自分の作品を撮影した画像を提出している様子

## 児童生徒の反応や変容

【アンケートより】

- ・模範動画と自分自身の作品を照らし合わせ、気をつけたいと思ったポイントを意識して書こうとするなど、自分の字を客観的に分析することができた。
- ・模範動画や友達の運筆を何度も動画で確認することを通して、運筆のポイントを捉え自分の字を書くときの参考にすることができた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・生徒が動画を見ながら、自分のペースで練習を行うようになったことで、教員は机間指導を通して、一人ひとりの生徒へより細やかなアドバイスをを行うことができた。
- ・タブレット PC 端末と習字道具を両方机に置くため、広い机がある教室で実践することが好ましい。本授業は美術室で行った。